

苫小牧市立清水小学校学校便り

# 清水の子



『未来を創造する  
清水の子の育成』

◇学びを広げる子  
◇思いやりあふれる子  
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 6 号 平成 30 年 9 月 28 日 発行



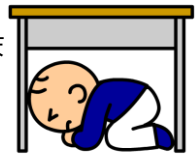
## 地震お見舞い申し上げます

校長 松井 操人

### 「平成 30 年 北海道胆振東部地震」発生

9月6日(木)未明、強い地震が北海道を襲いました。震源地は胆振地方中東部、震源に近い厚真町では震度7の揺れを観測しました。厚真町の山林では大規模な崖崩れが広範囲で発生し、多数の住宅が巻き込まれ、多くの方が亡くなりました。厚真町、安平町、むかわ町では住宅の倒壊や道路などの損傷が相次ぎ、札幌市清田区では「液状化現象」により、道路が波打ったようになったり、住宅が大きく傾いたりしました。また、北海道内全域で停電になり、厚真町、安平町、むかわ町や日高管内では断水もおこりました。

苫小牧市の揺れは震度5強。断水はありませんでしたが、停電により不便な生活を強いられました。清水小学校も避難所になり、多いときは20数名の人々が避難していました。市内すべての小中学校は6日と7日を臨時休校にし、10日(月)から学校が再開されました。苫小牧市では幸いにも大きな被害はありませんでしたが、胆振東部3町では、今なお避難所で暮らす人が多数いて、断水が続いている地域もあります。一日も早く、平穏な日常生活に戻ることを祈るばかりです。



### 避難所でのできごと

地震の翌週、滋賀県にお住まいの女性の方から学校に1本の電話をいただきました。内容は、「北海道に旅行に来ていたとき、6日の地震にみまわれました。近くの避難所を探し、清水小学校に来ました。知らない土地でこわい目に遭い、足が悪く、心臓に持病を抱え、不安で仕方ありませんでした。そんなとき、避難所で出会ったあるご家族に大変お世話になりました。5年生と3年生の子どもがいて、毛布や水などを運んでくれたり、家で作ったというチャーハンを届けてくれたり、たくさん気遣ってくれました。無事に滋賀に戻り、改めてそのご家族にお礼を言いたいので、連絡先を教えてくださいませんか」というものでした。子ども本人に確認すると間違いのないことでしたので、保護者と連絡をとり、連絡先をその方に伝えることを了承していただきました。



### 「心の備え」も必要です

災害が起こると、暗く、悲しいニュースに触れることが多くなります。そんなとき、このような心温まるできごとを知ると、こちらの気持ちも明るくなります。そして、自分たちも同じようにできるだろうかと、我が身を振り返る機会にもなりました。「備えあれば憂いなし」とは、非常用の水や食料などの物品を備えたり、避難方法や防災体制などを確認して「もしも」に備えるのはもちろんのこと、困ったときはお互い様、助け合おうという「心の備え」も欠かしてはいけませんね。